

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年12月25日

【評価実施概要】

事業所番号	270101280		
法人名	社会福祉法人平元会		
事業所名	グループホーム金沢なごみ荘		
所在地 (電話番号)	〒030-0855 青森県青森市北金沢2丁目13-11 (電 話) 017-775-5525		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成20年11月21日	評価確定日	平成20年12月25日

【情報提供票より】(平成20年10月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 13年 10月 15日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算	6.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円 ~ 30,000円	その他の経費(月額)	3,000 ~ 冬期6,000 円
敷 金	有(円)	(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	500 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(10月31日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名
要介護3	5 名	要介護4	0 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢 平均	83 歳	最低 76 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 柏葉会
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは民家を改修した造りであり、外観も普通の住宅と同様で町並みに溶け込んでいる。近くに商店街があり徒歩で買い物に行く事ができる環境である。普段から出掛ける機会が多いため、近隣住民と馴染みの関係になり、催事等の協力も得やすい。 ホームの日課では、畑作り・家事作業など個別に対応できるよう配慮されている。入居者からは自然な笑顔と会話が聞かれ、入居者・職員が一緒に楽しみながら生活を送っている。
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 外部評価を職員会議や運営推進会議で報告し、改善へ向けて取り組んでいる。前回受けたアドバイスで”ホームの構造が身体機能の面で入居に制限がある事を家族へ伝えることが望ましい”とアドバイスを受けていたが、契約書に盛り込まれ改善されている。また、出納帳の担当職員の捺印・署名の件も改善され現在は徹底されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 外部評価を職員会議や運営推進会議で報告し、改善へ向けて取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 2ヶ月に1回開催し、ホーム内の行事や活動などの報告を行っている。町内会長や近隣の方などは積極的に参加されているが、市職員は多忙のため年1回程度の参加となっている。不参加の時は、議事録を送付している。現在市担当と連絡を取り合う機会は少ないが、運営上の課題などがあれば、町内会や地域包括やその他関係機関などに相談し解決できている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11) 面会に来られる家族には随時報告できている。また、毎月請求書を送付する際、近況も添えて報告できている。普段から、ご家族の意見や要望を確認し対応しているためか、苦情や不満などの意見は聞かれていない。苦情ボックスを玄関・2階に設置しているが投書はない。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) ホームの管理者が中心となり、近隣住民や町内会などに積極的に働きかけ交流を図る事ができている。地域の催事やホームの防災訓練時の協力も得られている。 町内散歩や買い物など日常的に行っているため、地域の方々と触れ合う機会が多い。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中でその人らしさを大切にし、安全で安心できる暖かいケアを提供します」を理念に掲げ、地域の中でその人らしく生活できるよう支援している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	玄関やリビングのホワイトボードにも掲示し意識づけできている。”家庭的雰囲気を大切にしたい”という共通の思いをもとに、取り組まれている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	ホームの管理者が中心となり、近隣住民や町内会などに積極的に働きかけ交流を図る事ができている。地域の催事やホームの防災訓練時の協力も得られている。 町内の散歩や買い物などを日常的に行っているため、地域の方々と触れ合う機会が多い。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	外部評価を職員会議や運営推進会議で報告し、見直す点は率直に受け止め改善へ向けて取り組んでいる。		
5	6	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	2ヶ月に1回開催し、ホーム内の行事や活動などの報告を行っている。町内会長や近隣の方などは積極的に参加されているが、市職員は多忙のため年1回程度の参加となっている。不参加の時は、議事録を送付している。		
6	7	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	現在市担当と連絡を取り合う機会は少ないが、運営上の課題などがあれば、地域包括支援センターや町内会、その他関係機関などに相談し解決できている。		
7	8	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	研修に出向き理解を深めている。また、研修後に報告会を開き職員へ伝えている。		
8	9	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	研修を受けた職員からの報告を通し、全職員が周知できている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には理解し易いよう十分な説明を行い、契約を取り交わしている。		
10	12	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会に来られる家族には随時報告し、遠方の方には毎月請求書を送付する際近況も添えて報告している。		
11	13	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	普段から、ご家族の意見や要望を確認し対応しているためか、苦情や不満などの意見は聞かれていない。苦情ボックスを玄関・2階に設置しているが投書はない。		
12	16	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内での人事異動は毎年あるが、ホームの異動は極力行わないよう法人へ働きかけ理解が得られている。また、退職する職員がいる場合、利用者の混乱を避けるため一週間くらい前に話し、ダメージを防ぐことができている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人で計画している感染症の研修などの他に、外部研修のお知らせが毎月2つほどある。職員へ声をかけ参加できている。また、月1回職員が持ち回りで講師となり、緊急時の対応を演習している。夜間帯の備えとして積極的に取り組んでいる。いずれの研修も参加できない職員へは、プリントして説明している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人で主催し、他ホームに1人ずつ研修に行った事がある。新しい気づきに繋がるため、今後も機会があれば交流を持ちたいと考えている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前の見学や管理者が出向いたりし、利用者が安心して入居できる関係作りを心がけている。家族や担当ケアマネからの情報をもとに、馴染める環境作りや精神面でのケアに心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常的な家事作業や畑作りなど、過去の経験が生かせるような場面を設定している。過剰な声掛けや指示はせず見守るようにし、必要があれば声を掛け一緒に作業している。		


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	センター方式の様式に添って情報収集し、暮らし方の希望など把握している。身寄りのない方等情報収集が困難な方は、現在の状況を踏まえ本人に確認しながら対応を検討している。情報は年1回見直している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	本人・家族・担当者の意見を踏まえ作成できている。カンファレンスに参加できない家族へは、計画案を作成・送付し、意見を伺い作成している。		
19	34	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	日々の記録にもとづき変化がみられた場合は、カンファレンスを開催し計画を見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	病院受診・買い物・外出など、その時々に応じて柔軟に対応できている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望を取り入れ、適切な医療が受けられるよう支援できている。また、ホームの嘱託医は2週間に1回往診し、健康状態を把握している。		
22	44	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在対象者がいないため実際に携わった事がないが、終末ケアに対する方針は、入居前に契約書を基に説明し理解を得られている。また、状態に変化がみられた場合も、その都度説明する予定である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個別ファイルは所定の棚に保管され、外部者や入居者の目に触れないよう管理されている。利用者への対応については、相手を尊重した声掛けや対応がなされている。		
24	49	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの行動に制限がなく、本人のペースで生活できるよう支援できている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事作業が分担され、習慣になっている。利用者一人ひとりが自分の役割になると、1人で台所に向かい作業している。明るく楽しく家庭的な印象を受ける。		
26	54	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は1日3人程度で、午後から入っている。気分や希望により入浴日や時間を変えて対応できている。月1回は法人の大浴場を借りて、温泉気分が味わえるよう企画されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	在宅での生活習慣や得意な事などを活かし役割分担している。できる事を継続して行えるよう、無理のない範囲で支援されている。		
28	58	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節毎の行事や町内の催事などに参加し、気分転換が図られている。また近所にスーパーがあるため、買い出しは日常的に行われている。冬期間は足場が悪いため車で出かけている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修へ参加し、職員全員が周知し取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ施錠している。注意が必要な利用者は見守り、希望があれば随時外出援助ができています。1人で外出する方もいるが、普段から近所との交流があるため、探す際は協力を求める事ができる。家族にも鍵を閉めないケアを説明し了解を得ている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。推進会議で町内会長や近隣住民に協力を求め参加されている。居室が2階にあるため、推進会議で相談し、緊急時駆けつけてくれる方を要請し連絡表も作成されている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、摂取量を把握し個別シートに記録している。体調や嗜好に合わせて食事内容や形態を変え対応できている。摂取量が少ない方へは、提供する時間や量を調整し対応できている。また、体重減少など体調に関わる場合は医師へ相談し対応を検討する事も可能である。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	マニュアルが作成され、職員が回覧し周知できている。手洗いうがい・食前の手指消毒を実施し、感染を予防できている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングは利用者全員が集まった場合、隣同士の距離が狭まり、自然に会話が弾み、笑い声となる温かい雰囲気環境となっている。玄関周辺も民家と同様の造りがなされており、春には植木や花が飾られ、近所の方も立ち寄りやすい工夫がなされている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の作りによって料金が3タイプに分かれている。利用者の私物も持ち込まれており、備え付けの家具やベッドなども個々に生活しやすいよう配置されている。床暖房が入らない部屋については、必要時ファンヒーターを使用している。		

 は、重点項目。